



認知症患者さんへの 在宅での関わり方

現在日本には、認知症と診断を受けている方が数百万人いると言われ、今後の超高齢社会において、国を挙げての取り組みが求められています。



松原 清二 医師
在宅療養支援診療所まつばら
ホームクリニック 院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症サポート医

ところで、認知症患者さん
を支えられるというのが
実情なのです。
そんななかで当院とし
ての治療の工夫は、認知
症が強く「コミュニケーション
が取りづらい方

認知症の代表的な疾患 得られることもあれば、
場合は、フットケアなど
としては、アルツハイ 一方で落ち着きがなく、
でスキップを増やし、
マー型、Lewy(レ なたたりすることもあり、
清潔を意識していただく
ビー)小体型、前頭側頭 ご本人、さらにはご本人
ように努めています。こ
葉型、血管性などが上げ を支えている人たちの不
うした小さな工夫で、ご
られます。薬剤治療とし 安や介護負担を必ずしも
自宅での安定した療養を
ては、抗認知症薬でも 取れるとは限りません。
提供できることもあるこ
の忘れの進行を遅らせた 昨今の認知症の研究会
とを実感しています。
り、徘徊や大声を出すな や講演会でも、現代の認
知症に対する医療的なア え、今後もいろいろな角
度から認知症治療にかか
た場合には抗精神病薬で プローチの壁を皆感じて
わっていきたくと思いま
の治療などで対応します。 いるのが現状です。治療
の現場では、介護サービ
ただ、薬剤の使用に スやご家族の協力があっ
てこそ、認知症患者さん
よって思うような効果が ます。

【まつばらホームクリニック】
☎ 042-439-1250
西東京市東町 4-14-18-2F
(訪問中のため不在が多い)
■電話対応 : 午前 9:00 ~ 午後 6:00
■定休日 : 土日 (祝日は診療)
■訪問地域 : 西東京市全域、東久留米・
新座・練馬の一部

まつばらホームクリニック